

(講演要旨)

## What is Pragmatics Like?

三木 悦三

言語学 (linguistics) の一分野を占める語用論 (pragmatics) とはどのような研究なのか、いくつか英語の具体例を提示しながら、概説してみたい。

発表の流れは、以下の通り：

### 1) 言語研究と語用論

英語の付加疑問文 (tag question)、ダイクシス (deixis) 等を取り上げて、語用論的な観点から言語現象を概観する。

### 2) メタ言語 (metalinguage) と対象言語 (object language)

ことばの使い方に関する2つの区別、すなわち、通常の使い方 (ordinary/descriptive use) とメタ言語的な使い方 (metalinguistic use) を紹介する：

- a. Man is mortal. (ordinary/descriptive use)
- b. Man consists of three letters. (metalinguistic use)

### 3) メタ言語的否定 (metalinguistic negation)

2) を踏まえて、メタ言語的否定について考えてみる。議論のポイントは、メタ言語的否定は通常の否定 (ordinary/descriptive negation) とどのように異なるのか、つまり、2つの否定はまったく別のものなのか、あるいは両者の間には関係があるのか、という点である。

もう少し詳しく言えば、次の文はそれぞれの典型的な例と見なされている：

- a. We *didn't* see the hippopotamuses, but we saw the rhinoceroses.

(ordinary/descriptive negation)

b. We *didn't* see the hippopotamuses. We saw the hippopotami.

(metalinguistic negation)

a. では現実世界 (the real world) のことがらが述べられ、「カバは見たけれど、サイは見なかった」ことが表されている。一方、b. のメタ言語的否定ではもっぱらことばの使い方——この場合は ‘hippopotamus’ (「カバ」) の複数形——の適切さ (appropriateness) が問題となっている。

しかし、次のような例では2つの否定の区別は微妙になってくる：

c. X: Isn't it tiring for you to drive to work?

Y: I *don't* DRIVE to work; I JOG.

d. X: Oh, you're in a miserable foul mood tonight.

Y: I'm *not* in a miserable foul mood; I'm a little tired and would  
like to be left alone. (Carston (1996))

例えば、c. は「仕事には ‘drive’ ではなく ‘jog’ しながら行く」のようにことばの使い方の適切さが問題になっている——つまり、メタ言語的否定——ようにも思われるが、しかし、「仕事には、車を運転しないで、ジョギングしながら行く」のように現実世界のことばを述べている——つまり、通常の否定——ようにも思われる。

では、2つの否定は別物なのか、それとも関係があるのか、一体どのように考えればよいのだろうか？

\*Robyn Carston (1996) “Metalinguistic negation and echoic use,” *Journal of Pragmatics* 25, 309-30.